

第 8 回 笠間市立小中学校学区審議会

日 時 令和 7 年 2 月 20 日（木）

午後 7 時 00 分から

場 所 笠間市役所行政棟 2 階
2-6・2-7 会議室

次 第

1 開 会

2. 議 事

- （１）第 7 回審議会の振り返り ・ ・ ・ ・ 資料 1
- （２）答申案の協議 ・ ・ ・ ・ 資料 2～4
- （３）その他

3. 閉 会

第 7 回審議会の振り返り

前回第 7 回では答申案を提示し、内容について協議を行いました。

稲田地区について

質問：みなみ学園への統合は教室が不足していることから不可である。笠間小学校も内容的に空き教室がないこと、それに伴う校舎改修が必要なことで、慎重に決定すること。とあるが可能と不可能と結末が違うのは、何か他の理由があるのでしょうか。

A:みなみ学園の教室数が、約 11 教室ほどしかありません。今は普通学級とは別の特別支援教室も準備しなければならない状況があります。

質問：笠間小学校は統合する場合に増築は必要ないが、みなみ学園は増築が必要になってしまうから不可ということでしょうか。

A:、みなみ学園はそもそも教室のキャパシティが 9 教室と 2 教室しか空きがありません。笠間小学校は現状 22 クラスありますが、今から少子化で減っていくという点から、施設としては余裕があるという認識です。普通教室のほかに特別支援教室が必要です。(定員 8 名)

意見：今提案いただいた内容を吟味していくと、やはりグループ協議で、今の子どもたちをどうするかよりも、その子どもたちが大人になったときにどうするかという点で、皆さんに議論していただいたかと思います。やはり自分の子どもたちが大人になったときに、郷土笠間に誇りを持ち、子育てがしやすい町になってもらいたい。そう考えたとき、いろんなところに子育て支援の話が入っていました。具体的に進めてお話いただけると、皆さんもイメージがつかみやすくなるかと思います。後ほどポイントなどを説明していただけると、議論しやすいと思います。

意見：個人的な意見ですが、稲田小学校と稲田中学校を一緒にするという事は、1つの校舎が稲田地区にあるわけですね。10 年後を見据えてそうしようという結論が出たとします。ただ、今後も少子化が進んでいきます。10 年後、今度また稲田小中学校をどうするかとなった場合を考えると、最初から笠間地区に行った方が良いのではないかと私は思いました。

意見：いなだこども園と隣接して一緒に教育しているとはいえ、数年後に人数が減少するため、どうするのか。笠間地区に 2 校も小規模特認校があるのは、どうなのかと思いました。

A:、至近に義務教育学校が 2 つできることに関してですが、みなみ学園は教室のキャパシティとして、過密状態にあります。令和 5 年度で 170 人の児童生徒が通っているのですが、令和 6 年度は 190 人。みなみ学園との分散もできれば、事務局としてもありがたいところです。

意見：学校をどうするかという記述が、あるようでないので、分かるようで分からない。子ども

たちが通いたくなるような学校を作らなければいけないのは、私が参加していたグループでも明確にそういった意見があった記憶があるので、その視点はもう少し加えた方が良いのかと個人的に思いました。

意見：私も最初、稲田小学校と中学校を義務教育学校として一緒にした方が良いのではないかと、稲田地区の方の意見も聞いて賛成だったのですが、他の意見を聞くと、やっぱり笠間小学校が後に減少して教室に空きが出る。結局、いなだこども園と隣接して一緒に教育しているとはいえ、数年後に人数が減少するため、どうするのか。また隣接しているみなみ学園も小規模特認校です。笠間地区に2校も小規模特認校があるのは、どうなのかと思いました。

意見：事務局が「その意見だと、こうです。こうなってしまいます。」と、出た意見に対して反対理由を並べているだけの様な気がします。先ほども出てきた意見ですが、ビジョンが見えないのかなと思います。そのビジョンが何かというと、ここで話し合うよりは、地元の保護者や子どもたちがどのようにしてもらいたいのかニーズを拾わないと、作っていけないのかなと感じました。

意見：小規模特認校や義務教育学校にしたときのメリットや、こんなことを考えているのだ、ということを示していただけると、もう少し議論が進むかと思います。

大原小学校について

意見：友部地区という概念の中で1つ小規模特認校を据えてみるというのはありだとは思いますが。なぜ小規模特認校かという、そのノウハウはみなみ学園の編成で8年も経験があるので、行政でそのデータを分析してもらって、そういう位置づけの学校にするというのは、私はありだと思います。

調整区域について

意見：学区の指定があっても、割と自由に選べるという実態がある前提での話なのですが、協定という公の決まりではないところで、「どっちに通ってもよい」という地域があるというのは、10年ほど前、南小中学校の学区編成をするときに話題に出ました。結果的に自由に選択できるような手法があるのであれば、一旦指定をしてしまっ、従来の学校に行きたいという方には、指定校を変更をしてくださいという形で整理してしまった方が良いかと思います。

岩間地区について

意見：岩間第三小学校にする場合、学校侵入や交通状況が良いとの記載がありますが、私からすると、355 バイパスがあり、朝晩の交通量はかなり多いです。第三小学校は、真ん中とか南では

なく、端の方の東側です。穴戸ヒルズの方から来る子どもがいると遠いです。少しこの言い分が不適切ではないかと思ってお話しました。

意見：穴戸小学校に関して、大田町地区は必ず線路を渡らなければ小学校へ行けないですし、友部中学校へ行くにも、水戸線や常磐線を渡らなければいけない部分もあるので、答申案のこの書き方だと余計に危ないという印象があります。

令和 7 年 月 日

笠間市教育委員会 殿

笠間市立小中学校学区審議会

会長 石井 純一

答 申 書 (案)

令和 6 年 6 月 20 日付け、笠間市教育委員会諮問第 1 号で諮問があった「笠間市立小中学校の学区について」について、慎重に審議した結果、以下のとおり意見を取りまとめましたので答申します。

1. 適正規模判断の基準

本答申における、適正規模、適正配置の基準は「第 2 期笠間市立学校適正規模・適正配置基本計画」（以下。「基本計画」という。）にて制定したものを引用する。

基本計画において「適正配置の見直しが必要である」と想定される学校は以下のとおり。

学校名	理由
稲田小学校	令和 11 年度から新入生 18 人に満たない見込み
大原小学校	令和 6 年度から新入生 18 人に満たない見込み 複式学級が想定される見込み
岩間第二小学校	今後も継続して新入生 18 人に満たない見込み
稲田中学校	令和 11 年度から各学年で単学級となる見込み

※みなみ学園義務教育学校は小規模特認校のため対象外。

2. 審議の結果について

審議の結果、笠間市立小中学校の通学区域の適正化を図るため、下記のとおり改正することが適当であるとの結論に達した。

学校名	内容
稲田小学校 稲田中学校	・稲田小学校を稲田中学校に統合し、一つの義務教育学校とした上で、小規模特認校として笠間市全域からの児童生徒を受け入れ、児童生徒数の確保を行うことが望ましい。 ・稲田小学校を笠間小学校に統合、および稲田中学校を笠間中学校に統合し適正規模を確保することが望ましい。
大原小学校	・学校の構造や設備、地域や施設の特性を活かし、小規模特認校として笠間市全域からの児童生徒を受け入れ、児童生徒数の確保を行うことが望ましい。 ・調整区域は児童および保護者の負担とならないよう、大原小学

	校区と友部小学校区に学区を指定し調整区域を解消することが望ましい。
岩間第二小学校	・岩間第一小学校、岩間第二小学校、岩間第三小学校を岩間中学校に統合し、一つの義務教育学校とすることが望ましい。 ・岩間第一小学校、岩間第二小学校、岩間第三小学校を一つの小学校とすることが望ましい。

3.答申理由

本審議会では、諮問事項を審議するにあたり、学校の現状や今後の児童生徒数の推移、市民アンケート調査結果などを基に地理的条件を考慮し、児童生徒のより良い学習環境や通学上の安全確保、学校施設の老朽化状況、地域とのつながり、友人との人間関係などを軸に、近隣学校の規模を勘案し、適正な学校規模とすることを基本的な考え方とし、見直しについて審議してきた。

現在の制度である「指定校変更制度」により、保護者と子どもたちのニーズに応じ、時代に合わせ柔軟に対応していくことが必要。緊急時・災害時の避難場所も学区に関連しており、この観点からも学区の在り方を検討することが必要であるとする。

また、市民アンケート結果からも複式学級ではなく、複数学級の確保により多人数での切磋琢磨できる環境を望む声が多く、クラス替え等による人間関係の変化を体験することへの賛成意見が多い。一方で「少人数教育による目の行き届きやすい指導」という利点もあり、保護者や児童生徒にとって、より良い選択ができるような環境を構築することが望ましいと考える。

共働き世帯の増加に伴う、放課後児童クラブ等の保護者支援策において、充実を図ることが望ましい。また、笠間市の人口を増やす取り組みを継続することも必要であるとする。

今回適正配置検討の対象としなかった学校についても、今後の児童生徒数の動向を注視し、適切な時期に再度検討を行うことが望ましいと考える。

(1) 魅力ある学校づくりによる「あるべき学校の姿」について

将来、子どもたちが「この学校に通ってみたい」、保護者からも「この学校に通わせたい」といった、魅力を高めるための特色ある学校づくりが重要である。また、現在は通学区域の制度が弾力化され、地域の実情に即し、近接する他校の学区から通学することができる運用となっている観点も含めた通学区域の設定も必要であるとする。そのうえで、「4. 各地区の方向性」により、地域の特徴や学区再編の方向性を示すものである。

(2) 通学の安全確保について

学区再編に伴う通学距離の延伸により、遠距離通学を余儀なくされる児童生徒については、スクールバスや路線バスの運用による通学時間の短縮、安全な通学環境確保に配慮すること。

また、学区の変更に伴い、新たに発生する危険箇所の横断や、安全な学校進入路の整備、歩道やガードレールの設置等の、安全確保に最大限配慮願いたい。

(3) 地域との交流について

地域の行事の活性化、こども同士、地域内で世代を超えたものが必要である。学校で遊べなくなっていることもあり、地域で子どもが遊ぶようにすることで、地域の活性化につなげる。子ども会だけでなく町内会も含め、地域の活動や学校がそうした場として機能していた。今後のPTAや子ども会等、地域の交流について配慮願いたい。

4.各地区の方向性

(1) 稲田地区について

【特徴】

稲田地区は稲田石の産地であり、石切り場や石材団地、クライנגルテンなどの商業施設がある。また、「いなだこども園」と隣接し幼保小中連携教育を実施している。

【方向性】

地域の特性上隣接学区の編成では、適正規模確保には至らないため、稲田小学校を稲田中学校に統合し、小規模特任校および義務教育学校として、全域からの通学を促進し、児童生徒数の増加を図ることで、存続を模索する方法を検討することが考えられる。

また、稲田小学校を笠間小学校に統合する案、稲田中学校を笠間中学校に統合する案も考えられる。

【安全確保】

実施にあたっては適切なスクールバス等の交通手段の確保が必要である。

(2) 友部地区について

【特徴】

友部地区に設置される学校の児童生徒規模は一定の規模を確保できているが、大原小学校については、児童数の減少が見込まれている。しかしながら、大原小学校は地域の公民館として活用されており、他の学校にはない特徴がある。施設は平成15年築と比較的新しく、木を活かした構造やバリアフリー設計、エレベータ、給食調理室などが整っている。

【方向性】

大原小学校は令和15年度から複式学級が想定されているが、想定より早く複式学級となる可能性もあるため、対応が求められる。そのため、魅力ある学校づくりと学校運営を行い、小規模特認校として全域からの通学を促進し、児童数の増加を図ることで存続を模索する方法を検討することが望ましい。

【友部駅周辺の調整区域について】

平成13年5月1日付けで友部小学校、または大原小学校のいずれかを通学先として選択できるという協定がなされた地域が調整区域である。現在は、通学先の変更に柔軟に対応できる「指定校変更制度」が整備されている。学区の指定を行いつつも、児童と保護者の希望を尊重した上で、大原小学校の適正規模を確保することが望ましい。

（3）岩間地区について

【特徴】

岩間地区の小学校と中学校合同で引き渡し訓練やあいさつ運動を実施するなど、地区全体での取り組みが盛んである。合気道開祖・修練の地であり、合気神社が建立している。岩間地区に一つの中学校のため、小学校を卒業後原則岩間中学校へ進学する。

【方向性】

- ① 岩間第一小学校・岩間第二小学校を岩間第三小学校に統合する案が考えられる。将来にわたり適正規模を確保でき、進学先は岩間中学校となる。地域で一つの小学校を地区全体で作っていく形は、他の地区にない最大の特徴である。
- ② また、岩間第一・二・三小学校を岩間中学校に統合し、義務教育学校として地域全体で一つの学校を見守る形となることも考えられる。義務教育学校として再編されることになるが、将来にわたり適正規模を小学校（前期課程）・中学校（後期課程）で確保できる。9年間を同じ学校で過ごすことにより、小・中学校が目指す子ども像を共有し、一貫した教育課程を編成・実施することができること、さらに、地域で一つの学校を地区全体で作っていく形は、他の地区にない最大の特徴である。

【施設整備・安全確保】

- ① 岩間第三小学校へ統合する場合。スクールバス等交通手段の確保が必要である。進学先は岩間中学校となり、ひとつの小学校からひとつの中学校へ進学となる形となる。
- ② 岩間中学校へ統合する場合、小学校校舎の増築、進入路の拡幅整備、スクールバス等交通手段の確保、運行に必要な進入路や転回場整備が必要となる。岩間中学校は岩間地区の中心に位置し、統合元の各学校からの通学時間の増加が少ないことが考えられる。

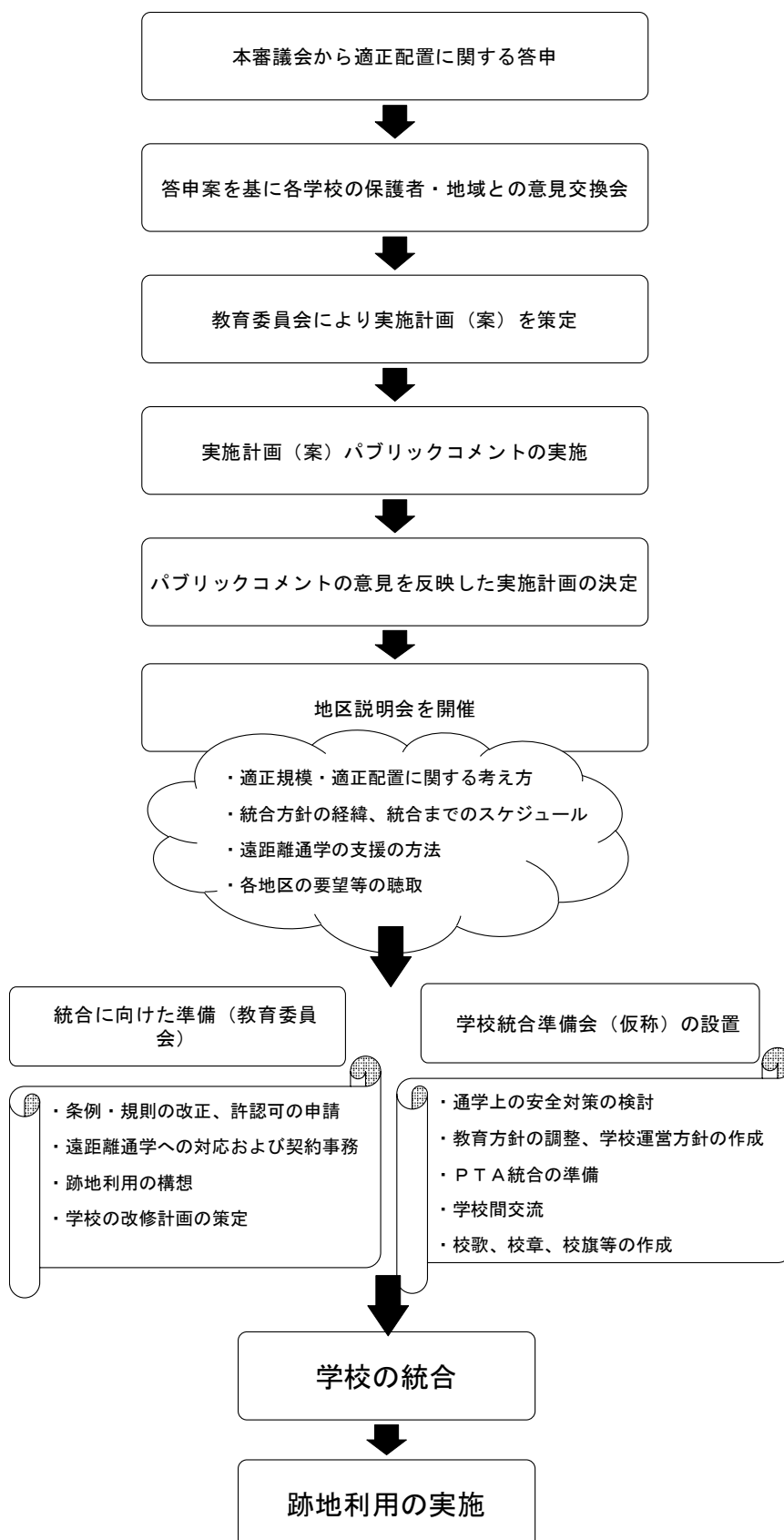
5.これまでの審議の経緯

基本計画の方針に基づき、10年後の学校の在り方について協議を行ってきた。

回数	開催日	審議会内容
第1回	令和6年6月20日	委嘱状の交付、諮問書の交付、基本計画の説明 アンケート実施の概要について
第2回	令和6年7月18日	第1回審議会の振り返り アンケート調査結果（概要）の説明

第 3 回	令和 6 年 8 月 22 日	アンケート結果の説明 グループ協議（地区ごと）
第 4 回	令和 6 年 9 月 19 日	グループ協議の結果の共有 グループ協議（地区を混ぜて）
第 5 回	令和 6 年 10 月 24 日	グループ協議の結果の共有 答申骨子案の説明、学校ごとの検証
第 6 回	令和 6 年 12 月 19 日	編成案検証結果の説明・協議 答申案の作成
第 7 回	令和 7 年 1 月 23 日	答申案の修正・協議
第 8 回	令和 7 年 2 月 20 日	答申案の協議・確認・修正

6.再編への流れ



学校運営の想定 提案

案	内容	利点・教育効果と特徴	必要な対応
稲田小学校 稲田中学校	・稲田小学校を稲田中学校に統合し義務教育学校小規模特認校として笠間市全域からの児童生徒を受け入れ	・9年間の一貫教育が行え、教育カリキュラムが一貫する ・小人数で小回りが利き、地域の特徴・産業(石の町や幼保小中連携)等の教育が行いやすい。発信・交流拠点としての教育 ・こども園と小中が至近にあり、一貫した子育て環境が維持され、子育てがしやすい。 ・SNS時代に合わせたICT教育と地場産業の連携。 ・今までと通学方法が変わらない。	・クラス替えが不可。人間関係の固定化 ・中学校部活動の縮小 ・校舎改修 ・跡地活用、維持管理
	・稲田小学校を笠間小学校に統合、および稲田中学校を笠間中学校に統合	・複数学級によるクラス替え等環境維持 ・大人数で切磋琢磨できる環境の維持 ・笠間城跡や稲荷神社等SNS時代のICT教育と地場産業の連携	・スクールバスの増便 ・校舎の改修 ・稲田中学校の避難所指定再編
大原小学校	・学校の構造や設備、地域や施設の特性を活かし、小規模特認校として笠間市全域からの児童生徒を受け入れ、児童生徒数の確保を行うことが考えられる。 ・調整区域は児童および保護者の負担とならないよう、大原小学校区と友部小学校区に学区を指定し調整区域を解消することが考えられる。	・児童クラブ時間拡大による保護者支援 ・友部地区の小規模特認校として全域から受け入れ ・バリアフリー、エレベータなどを活用した福祉教育発信・交流拠点としての教育 ・友部地区の中で市街化されていない、自然豊かな環境での教育 ・IT未来高校との連携教育(ICT) ・発信・交流拠点としての教育	・遠方から通う児童への対応 ・指定校変更手続きの周知と柔軟な対応
岩間第一小学校 岩間第二小学校 岩間第三小学校 岩間中学校	・岩間第一小学校、岩間第二小学校、岩間第三小学校を岩間中学校に統合し、一つの義務教育学校とする	・地区全体でのひとつの学校を作り上げることが可能(運動会や文化祭等で地域共同など) ・栗という地場産業を絡めた教育の実施 ・農村地帯での自然豊かな環境での教育	・校舎増築、施設改修 ・小学生のみスクールバスの運行 ・跡地活用、維持管理
	・岩間第一小学校、岩間第二小学校、岩間第三小学校を一つの小学校とする	・地域のお祭りや合気道、伝統芸能継承を岩間地区全体で取り組み教育資源として非常に有効 ・岩間3小は台湾との連携協定を結ぶ。 ・岩間3小はキャリア教育に力を入れている。全地区へ波及する	・校舎改修 ・小学生のみスクールバスの運行 ・跡地活用、維持管理
笠間市全域	今後の連携教育想定について ・台湾の学校との交流による異文化交流 ・茨城大学や常盤大学との教育学部連携授業や、教職員志望学生派遣による新しい授業の展開。笠間への教育資源の還流 ・IT未来高校や笠間高校メディア芸術科との学校交流による連携。地元高校への進学や、今後のキャリア選択肢について低学年から触れる環境 ・SDGs教育、ユニバーサルマナー教育		

【検証シート】委員意見まとめ

No 1 稲田小学校

提出数

21/27

* 判定結果

検証項目	検証内容	検証結果	賛 成	どちらでもない	反 対	無 回 答
①学区の見直し	・大郷戸、箱田、片庭を稲田小区へ ・本戸地区、来栖地区を稲田小区へ	・適正規模×	14	4	3	0
			66.7%	19.0%	14.3%	0.0%
②学校の統合	・稲田小学校を笠間小学校へ統合。	・適切な交通手段を確保すれば 適正規模○ ・統合時期	10	5	5	1
			47.6%	23.8%	23.8%	4.8%
③小中一貫校 小規模特認校	・稲田中学校または稲田小学校に統合し、義務教育学校とする。 ・小規模特認校	・稲小施設老朽化 ・適正規模×	11	6	3	1
			52.4%	28.6%	14.3%	4.8%
④総合判定	学区の編成× 学校の統合または義務教育学校化の検討 「石のまち」地域の特性を活かす		15	6	0	0
			71.4%	28.6%	0.0%	0.0%

※ 学校個別検証シートの「検証結果に対する委員の判定」において、段階評価として数字に○をつけていただいたものです。

(3…賛成 2…どちらでもない 1…反対)

* 自由意見

	賛 成 意 見	どちらでもない・無回答	反 対 意 見
①学区の見直し	・学区の見直しが必要。 ・隣接校についても児童数が少ないので現実的ではないと思います。 ・適正ではないため、検証結果に賛成。		・通学時間が長くなるため反対。
②学校の統合	・統合に賛成。 ・交通手段は必須。 ・笠間小学校の一部改修が必要であるとのことですので、適正な改修をお願いしたいと思います。 ・空き教室問題は数年後解消できそう。(笠間小も減少するから)		・交通手段の確保が難しそう。
③小中一貫校 小規模特認校	・通学時間を考えると、稲中に統合は賛成、現実的。 ・稲田地区の方の意見を聞くと、稲田で通いたいという思いがあるため。 ・安全第一として考えたい。地震などがあつたときに、学校だから安心だと思いたい。 ・単学級であっても、稲田地区に学校を残しておきたいというのが本音です。	・義務教育学校にしても将来、また統合を考えなければならない。稲中に統合に賛成。 ・特任認定校についてはみなみ学園があるので近くに2校は必要ないと思われます。	・施設の改修を要するため、稲小に統合は好ましくない、反対。 ・適正規模の確保が不可で単学級編成が解消されないところに改修等で税金を使うのであれば学校を統合し、スクールバス等に使った方がよい。 ・適正規模が確保できないため、一貫校にしても現状と変わらないことが反対の理由。
④総合判定	・小・中でまとめる。 ・稲田地区の案は統一すべき。	・統合。 ・義務教育と地域の魅力を両立可能な教育施策は可能であるか見解がほしい。	

※ 学校個別検証シートの「検証結果に対する委員のご意見」において、自由記述としてご記入いただいたものです。

【検証シート】委員意見まとめ

No 2 稲田中学校

提出数

21/27

* 判定結果

検証項目	検証内容	検証結果	賛成	どちらでもない	反対	無回答
①学区の見直し	・大郷戸、箱田、片庭を稲田中区へ ・本戸地区、来栖地区を稲田中区へ	・適正規模×	12	5	2	2
			57.1%	23.8%	9.5%	9.5%
②学校の統合	・稲田中学校を笠間中学校へ統合。	・適切な交通手段を確保すれば 適正規模○ ・統合時期	11	4	4	2
			52.4%	19.0%	19.0%	9.5%
③小中一貫校 小規模特認校	・稲田中学校または稲田小学校に統合し、義務教育学校とする。 ・小規模特認校	・稲小施設老朽化 ・適正規模×	12	5	2	2
			57.1%	23.8%	9.5%	9.5%
④総合判定	学区の編成× 学校の統合または義務教育学校化の検討 「石のまち」地域の特性を活かす		14	5	0	2
			66.7%	23.8%	0.0%	9.5%

※ 学校個別検証シートの「検証結果に対する委員の判定」において、段階評価として数字に○をつけていただいたものです。

(3…賛成 2…どちらでもない 1…反対)

* 自由意見

	賛成意見	どちらでもない・無回答	反対意見
①学区の見直し	・No1の稲田小学校に同じく、統合を考えるべき。		・通学時間が長くなるため反対。
②学校の統合	・交通手段は必須。 ・笠間中学校と統合するのが良いと思います。 ・中学生になると人間関係が複雑になり、適正規模のクラス数は確保が必要と考えるため。 ・校舎の改修で可能ならば、部活動も活発になるので賛成。	・電車通学も検討は必要？ できれば補助金を（スクールバス導入と兼ねて）。デマンドバスタクシーの便数を確保し、市民の足として併用しては。	
③小中一貫校 小規模特認校	・中学校こそ、大人数での関わりが重要であると考え。 ・稲中に統合した方が費用的には…ただしみなみ学園もあるため、どのような特色を出すかは今後の課題？ ・通学時間を考えると稲中統合が現実的（施設は改修済である）。稲小統合は施設の改修を要するため好ましくない。	・No1の稲田小学校に同じく。 （みなみ学園がある、税金をスクールバスに使用） ・稲中に統合は賛成、稲小に統合は反対。	・適正規模が確保できないため、一貫校にしても現状と変わらないことが反対の理由。
④総合判定	・小・中でまとめる（稲中？）もしくは笠間で統合。 ・稲田地区の案は統一すべき。	・義務教育と地域の魅力を両立可能な教育施策は可能であるか見解がほしい。	

※ 学校個別検証シートの「検証結果に対する委員のご意見」において、自由記述としてご記入いただいたものです。

【検証シート】委員意見まとめ

No 3 大原小学校

提出数

21/27

* 判定結果

検証項目	検証内容	検証結果	賛 成	どちらでもない	反 対	無 回 答
①学区の見直し	調整区域の学区固定 ・常磐線線路で分割 ・県道105号、193号で分割 ・大橋/池野辺/福田地区を大原小区へ	・適正規模○ ・適正規模× ・東小中の経緯により負担大×	17	3	1	0
			81.0%	14.3%	4.8%	0.0%
②学校の統合	・笠間小/友部小/中央小との統合検討	要検討	15	4	2	0
			71.4%	19.0%	9.5%	0.0%
③小中一貫校 小規模特認校	・友部中または友部第二中と統合し、 小中一貫校とする。 ・小規模特認校	・近隣の小学校に影響 ・適正規模× ・小規模特認校認定の必要性	10	7	2	2
			47.6%	33.3%	9.5%	9.5%
④総合判定	校舎が新しく、教室の作りや設備が充実している。活用を検討する方向。 「福祉のまち」地域の特性を活かす		16	3	0	2
			76.2%	14.3%	0.0%	9.5%

※ 学校個別検証シートの「検証結果に対する委員の判定」において、段階評価として数字に○をつけていただいたものです。

(3…賛成 2…どちらでもない 1…反対)

* 自由意見

	賛 成 意 見	どちらでもない・無回答	反 対 意 見
①学区の見直し	- いつまで行政区（調整区）を設置するのか。早急に現状を変えるべきである。 - 学区の見直しは難しい。 - 学区を変更する人が増える。 - 学区固定は行ってもよいと思われるが、結局は越境申請が増えるのかもしれない。 1クラスの学級を生かしていく。 - 新学区の中間に学校の口が必要では？ - 人数確保して小中一貫の義務教育が良い。 - 線路をまたがないこと及び交通量も比較的少ない。歩道も確保されている。 - 常磐線で分割して良いと思う。速いといっても600m程度。 - 合理性が高いため、常磐線で分割が良いと思う、賛成。	- 常磐線で分割に反対、県道で分割に賛成。 - 常磐線で分割して18人以上確保できても、幼稚園などのつながりで友部小学校を希望する人が増えるのでは？ - クラス数が少なく、クラス替えができないことへの不安はないのか？ - 自分の子どもの意見では、クラス替えは必要とのこと。	学区を固定しても、学区変更を希望する方が多くなるだけで、根本的な解決にならないと思う。
②学校の統合			- 大原小の設備を活用し続けたい。（子どもたちに） - 校舎が新しいのもったいない。
③小中一貫校 小規模特認校	- 小規模特認校が増えていくと、それぞれの特認校での児童確保が難しくなるのではないかという懸念があります。 - 小中一貫でなくとも良いと思います。 - 小規模特認校を検討してみても。 - 近くの小学校との統合が必要なため反対。小規模特認校にして人数を増やす。	- 友部小との学区の見直し、統合、市立病院との連携。 - 笠間地区にはみなみ学園があり、その成果も出てきていると思われます。通学面から友部地区から入学しにくいのではとの思いもあり、友部地区にも設立してみても。友部駅からスクールバスを出すことでもっと広域から入学してくれる可能性も。	
④総合判定	- 大原小をなくすことは反対。大原小を増やすための施策が必要である。学区の見直しと小規模特認校を合わせて実施。 - 医療や福祉などに使ってほしい。	友部小等の違いがあるのか、ないのか、教育及び環境の面から整理を願う。	

※ 学校個別検証シートの「検証結果に対する委員のご意見」において、自由記述としてご記入いただいたものです。

【検証シート】委員意見まとめ

No4 岩間第二小学校

提出数

21/27

* 判定結果

検証項目	検証内容	検証結果	賛成	どちらでもない	反対	無回答
①学区の見直し	隣接学区と再編 ・北川根小と再編 ・岩間一小、岩間三小と再編	・橋を渡る危険性 ・通学に時間を要する ・適正規模×	11	4	4	2
			52.4%	19.0%	19.0%	9.5%
②学校の統合	・岩間一小、岩間二小を岩間三小へ統合	・適切な交通手段を確保すれば 適正規模○	10	7	2	2
			47.6%	33.3%	9.5%	9.5%
③小中一貫校 小規模特認校	・岩間一小、二小、三小を岩間中学校へ 統合し、義務教育学校とする。	・改修コストは大きい 適正規模○ ・地域の理解と協力が必要	16	3	1	1
			76.2%	14.3%	4.8%	4.8%
④総合判定	岩間地区で1つの小学校または義務教育学校を作る取組の必要性。 行政や学校運営協議会、地域との連携を図って推進。		17	3	0	1
			81.0%	14.3%	0.0%	4.8%

※ 学校個別検証シートの「検証結果に対する委員の判定」において、段階評価として数字に○をつけていただいたものです。

(3…賛成 2…どちらでもない 1…反対)

* 自由意見

	賛成意見	どちらでもない・無回答	反対意見
①学区の見直し	・危険な場所は通ることがないように。 ・危険な所があるのであれば、無理に再編しなくて良いと思う。 ・どちらも通学時間が長くなるため。 ・不可。		
②学校の統合		・教室が不足する恐れがあるのであれば二小と三小を統合（二小は廃校）でも良いと思う。 ・スクールバスで対応可能だが、大幅増で教室不足となる可能性がある。	・通学に危険箇所があり、距離も遠くなる児童が増えることや、スクールバスの運行が現実的ではない。
③小中一貫校 小規模特認校	・岩間義務教育学校として考えていくのが最も妥当である。 ・岩間地区においては小中一貫の1校でも良いのではと思います。 ・義務教育学校とするのが最も良いと思う。 岩間地区の小中校を統合してほしい。 ・スクールバスによる通学。改修に費用をかけても将来的には効果あり。小中一貫にすることで縦割り班も活発になる。 ・将来的には義務教育学校にまとめた方が良いと思いました。 ・コストが大きくても、教育効果が高いなら進めても良いと思う。 ・老朽化のタイミングまで待ってからでも良いかと思います。	・義務教育学校とする必要性を整理したい。 小学校を1つとすること自体は賛成。 ・笠間地区、友部地区での義務教育学校への編成と異なり、地区に1校となるため、あまり特徴を出しすぎると「普通」を希望する個人との差が生じる可能性もあるため、注意が必要。選択肢がないため。	
④総合判定	・岩間の真ん中で小中でまとめる。(全体) ・地域のための学校、教育のための学校という区分を言葉ではなく内容で示したい。 子どもが通いたくなる統合後の学校を示す。(ハードでもソフトでもどちらでも) ・統合が小中一貫のどちらかで検討する。 ・各小学校→岩間中へ通うため1校がよい。		

※ 学校個別検証シートの「検証結果に対する委員のご意見」において、自由記述としてご記入いただいたものです。